

佐藤慶太郎と別府

別府史談会総会講演要旨

江藤 明

佐藤慶太郎は明治元年（一八六九）に北九州市の若松で生まれ、昭和十五年（一九四〇）別府市で七十三歳の生涯を閉じた。

赤金御殿の伊藤伝右衛門は石炭で儲けたが、伝右衛門



佐藤慶太郎像

の豪華な赤金御殿は今も跡形もなくなった。慶太郎も同じように石炭で儲けたが、儲かったお金のすべてを社会に寄付して、公共施設の建設に使った。この所が伊藤伝右衛門と少し違うと思われる。

佐藤慶太郎は、社会施設の建設にずいぶん貢献したアメリカの鉄鋼王カーネギーを尊敬し、自分は日本のカーネギーになるということが生涯の願いであつたらしく、東京の美術館をはじめ至る所に資金を寄付して公共施設の充実に貢献している。

東京美術館の建設

大正十年、佐藤慶太郎がたまたま石炭の用事で東京に出向いていたとき、ホテルで見た新聞の論説欄に「世界各国の主要な都市には、つまり主だった国の首府には、

その国の文化を示す立派な美術館がある。(当時大正十年)上野の大博覧会で、展示の一端として建てた美術館があるが、東京府がそれに八十万円も手を入れれば立派な美術館になる。これを是非残してほしい。」という記事があるのを読んだ。

当時、東京には美術館がなかった。慶太郎はさっそく丸ノ内にあった東京府庁を尋ね、知事に八十万円の寄付を申し出た。八十万円は今でこそ手の内になるの金額であるが、現在の六十億円にあたる大金である。その大金を一介の人物が寄付するというのであるから、府は驚いて福岡県庁などに連絡を取り慶太郎の人物調査をした。

ところが、各方面の公共施設にかなりの資金を投入し、また、育英資金を出して多くの学生を支援している人で、北九州では知られた人物であることがわかった。

明治生まれの人達に、「世のため人のために私財をなげうつ」とか「子孫に美田を残さぬ」などの言葉があるが、それを地で行く人であった。

慶太郎は知事に、八十万円の建築費にもう二十万円を加えて百万円の寄付を即座に約束した。百万円を現在の

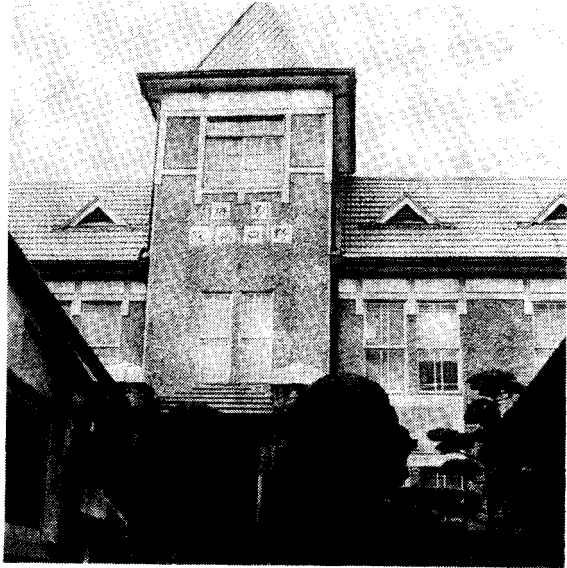
金額に換算するとおよそ七十億円にあたる。

あいにく大正十二年に関東大震災があり、美術館の竣工は遅れたが、大正十五年、元号が変わって昭和元年に上野の東京都美術館が創立されたのである。美術館の竣工は、日本中の画家が待ち望んでいたもので、画家たちは感謝の気持ちをこめて慶太郎の胸像を贈ることにした。作製は、当時肖像彫刻の第一人者であった大分県出身の朝倉文夫がのみを振るい彫像を完成した。それが実は今別府の美術館にある胸像である。

佐藤慶太郎と野口雄三郎

東京府美術館を寄贈した頃、若松にいた慶太郎は胃潰瘍の手術を受けることになった。

胃の手術は若松病院の外科部長が自ら執刀し、経過も非常によかった。感心した慶太郎が執刀した医師に「胃が専門だろうか」と尋ねると、医師はバセドー氏病の勉強をしていると答えた。野口雄三郎である。その当時すでに学会から注目されていた。そんな勉強をしているのなら、ドイツに行って本格的に専門の勉強をするようにと、



野口病院

別府市教育委員会

自費を投じて三年間ドイツのベルリン大学に留学させた。野口が留学を終えて帰国し、しばらく若松病院の院長としてすごしていたが、「あなたのためにバセドー氏病の専門病院を作ることにした」と言って野口病院初代院長として迎えられた。これがバセドー氏病の権威として

名高い野口病院の起りである。

慶太郎は晩年、野口博士の庇護のもとに野口病院の南側の佐藤別荘で過ごした。戦後、この瀟洒な別荘には佐藤喜代子という二番目の夫人がすんでいたが、富田という人が借り受けて「きよ」という旅館を経営していた。ジンギスカンなどを食べさせる旅館で有名であったが、今は駐車場になってしまった。

別府市美術館の設立

慶太郎は、昭和五十年佐藤別荘で野口雄三郎に見取られてこの世を去った。

慶太郎は、財産をつぎつぎと寄付したので晩年は必ずしも裕福とは言えなかったが、「自分にはもうほとんど財産はない。しかし、有価証券や株券を始末すれば少しは残るであろう。葬式やその他のことは一切気にせず、有価証券類を全部始末してぜひ別府に美術館の基金としてを寄贈してほしい」というような遺言を残したそうである。

遺族は遺言どおり有価証券を始末して別府美術館建設

資金として十万円を別府市に寄付した。当時の十万円を現在の金額に換算すると、約三億五千万円に当たるといわれる。しかし、時局は切迫して太平洋戦争に突入する前夜であり、美術館などを建設する時期ではなかった。結局終戦まで美術館は出来ず絵画も買うことが出来なかった。

戦後、脇鐵一市長が公選制初代市長に当選した。脇は非常に識見の高い、志の高い市長であった。彼は、戦時中に京都と共に別府が米軍の爆撃を受けなかったのは、保養地として利用する目的があったといわれるが、単に米軍の保養地にとどまらず、本当の意味で国際的な町にしなければならぬと訴えた。

昭和二十五年、脇市長を先頭にして署名運動を起こして市民、国会議員共どもに努力した結果「別府国際観光温泉文化都市建設法」が制定された。脇の「世界の別府にしたい」という願いが通じたのであろう。戦災を受けてない都市が、広島・長崎とともに都市復興のための補助金をもらうことになったのは異例のことであった。脇には、別府を東九州の起点にして熊本・長崎まで道路を

とうそうという九州横断道路や九州横断自動車道路の構想もあったといわれる。

脇がまず手を付けたのは、別府市美術館の建設であった。絵画の買い付けには、京都にいた福田平八郎とパリから帰朝して別府にいた佐藤敬であった。

また、日出町の出身で東京美術学校の教授であった三浦直政を教育課長（今の教育長）に招いた。三浦は美術に堪能であるばかりでなく、朝倉文夫とも昵懇であった。余談であるが、朝倉がかねがね別府に美術学校や美術館を作りたいと考えていた。このことを知っていた三浦は脇とともに県に陳情して、ユニークな音楽美術の専門の高等学校である緑丘高校が設立された。緑丘高校が別府に出来たのは朝倉文夫の発想にあったのである。

絵画の収集は福田と佐藤によってすすめられ、美術館設立資金で二十点の名画が揃った。これらの画家はその後つぎつぎと文化勲章の受賞者となった。福田と佐藤の目の確かさがここに実証された。

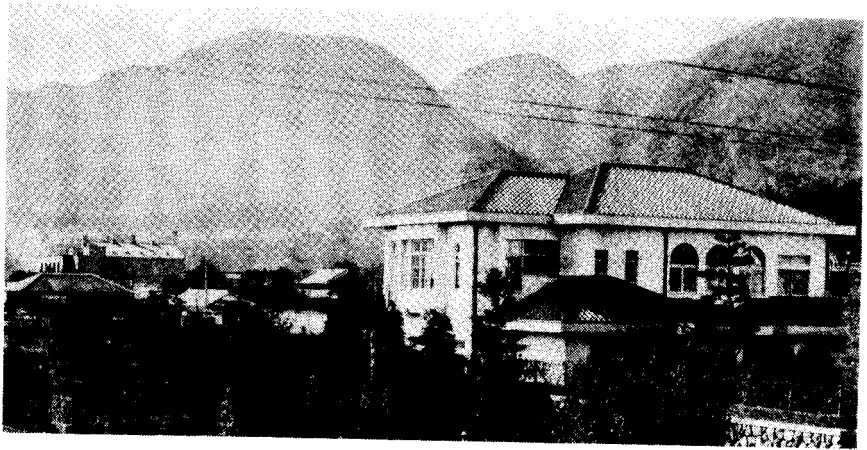
たとえば今大分県の文化勲章作家で在世中の作家は高山辰雄である。現在、彼の絵を購入しようとすれば、八

千万、九千万、一億円に近いであろう。いま別府市美術館にある二十点の絵を手放せば十五億円にはなると思われる。

名のある画家の絵が収集できたもうひとつの理由は、東京美術館を寄贈した慶太郎が、死に際に別府市美術館の設立を遺言したことに感動した画家たちが、別府に出来る美術館にぜひ置いてほしいと非常に安く手放してくれたことにあるといわれる。

当時の別府市には、有名な画家の絵は揃ったが展示場所がなかったので、とりあえず別府市公会堂（中央公民館）の会議室に展示した。容赦なく朝日が当たり絵がたいへん痛んだことも事実である。もっとも、別府にはいい絵があると尋ねて来る人があっても、普段は鍵をかけているので、係りのものが二階まで案内して鍵をあげ、入り口で待っているというような有様で、せっかく名画に出会ってもゆっくりと観賞することができなかった。

このように別府市美術館は公会堂の一室に絵を保管した状態であるから、美術館活動は十分には出来なかったが、九州では最初の公立美術館であることは紛れもない事実



「佐藤別荘」と最初の美術館となった公会堂（河村健一氏提供）

である。その後、文化会館の三階に移して美術館となったこともあるが、やはりこれも図書館の書庫の前が通路で、なかなか気やすく観賞できる美術館ではなかった。

昭和五十九年に現在地のホテル

寄贈によって、内部を改造し、やっと独立した美術館らしきものになって、いろいろな人が観賞に来館し、不分ながら美術館としてのかたちが出来た。

一昨年より全国から絵を募集して「現代絵画展」を催すことになった。小さな美術館であるがたくさんの応募があり、全国規模の絵画展を催すことによって、別府市美術館の新しい歴史が開かれようとしている。

佐藤慶太郎の遺志に報いることが出来ればと考えている。

もうかなり以前のことになるが、オランダの大使が来別して、地獄巡りをしたことがある。案内の助役が、別府の温泉は日本一の湧出量を誇るといふ説明をしたところ、それではぜひ温泉博物館を見せてほしいと言われたいへん恥ずかしい思いをしたということである。日本の温泉都市であれば、あらゆる温泉の資料が揃った温泉博物館があつて当然と思つたのであろう。

岡山県の倉敷市は、見事な蔵屋敷が残っていてアンティークな町並みが人々を引き付ける情緒ある町である。しかし、この町を訪れる年間五百万人のうち、二百万人は大

原美術館を訪れるそうである。フランスのパリもルーブル博物館があるから世界中から人が集まるのである。

本格的な美術館や博物館は、こどもから老人に至まで万人を引き付けるなにかがあると思われる。佐藤慶太郎は、「別府は温泉があるから身体の休養ができ、風景がいいから心の保養ができる町である。しかし、もうひとつ身体の栄養と同時に心の栄養がある。それは文化施設である」と、戦争中から考えていた。

別府は、四国から来た油屋熊八が身を賭して別府の宣伝をし、若松の人佐藤慶太郎が美術館の設立に私財を投じたように多くの人々が別府について貴重な提言をしている。別府を故郷とする我々が別府のよさを見据えて本當の文化都市としてますます発展するよう努力する必要があると思われる。